

令和2年8月

各団体・機関の責任者 各位

一般社団法人 農業開発研修センター
会長 理事 小 池 恒 男
[公 印 省 略]

緊急特別研究会

「シリーズ2 新型コロナウイルスとどう向き合う

ー農産物流通問題を中心にーの開催について

拝啓 時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当センターでは、4月7日の新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言を受けて、感染拡大防止のため、7月と8月に開催予定の基幹研究会を止むなく延期しておりました。しかし、5月25日の緊急事態宣言解除を受け、事態の混迷の深まりと緊急性を鑑みて、緊急特別研究会をシリーズで企画開催することとしました。

わが国は、国民の厳しい自粛により新型コロナ感染拡大の第1波を乗り切り、緊急事態宣言が解除されましたが、自粛規制の緩和等により感染者数が増加傾向にあり、第2波、第3波の懸念が現実味を帯びてきました。

そこで、閉塞感漂うコロナ禍を乗り切り、アフターコロナをどう切り拓いていくか。研究者・実践者の提言を通じて、理解を深め、確信へとつなげることができたらと願い、今回はシリーズ第2弾として「農産物流通問題」に着目して、企画開催します。

J Aグループをはじめとする地域農業の関係諸団体の役職員の皆様とともに、アフターコロナの羅針盤を見出すための一助として是非とも本研究会をご活用いただきたいと思いますと考えております。

貴団体・機関の関係者のご参加につき格別のご配慮を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、当センターは、本研究会開催にあたり万全の感染防止に努めます。

敬 具

緊急特別研究会

「シリーズ2 新型コロナウイルスとどう向き合うのか

－農産物流通問題を中心に－ 開催要領

主催：一般社団法人農業開発研修センター

趣 旨：

わが国は、国民の厳しい自粛により新型コロナウイルス感染拡大の第1波を乗り越え、緊急事態宣言も解除されました。その息つく間もなく、新規感染者数が増加傾向となり、第2波、第3波の懸念が現実味を帯びてきました。今回の新型コロナウイルス感染拡大は、経済社会と私たちの生活様式を一変させましたが、フードシステムの弱点も顕在化させました。

そこで、閉塞感を払拭し、新型コロナウイルス感染拡大を乗り越え、アフターコロナをどう切り拓くのか。今回はシリーズ第二弾として、「農産物流通問題」に着目して、研究者と現場の実践者である報告者から提言いただき、今後のフードシステムのあり方について共に考え、深め、確信へとつなげることができたらと願い、本研究会を開催します。

日 時：令和2年9月17日(木) 13:20～16:50

会 場：京都JAビル 地下2階 201・202会議室
京都市南区東九条西山王町1（JR京都駅八条東口より徒歩約5分）

対 象：①単位JA、都道府県農協中央会・連合会・県本部、全国連の役職員
②地方自治体の農林行政担当者・議会議員
③その他、関連する農業団体・行政機関などの役職員

定 員：40名 ※「3密」を避けるため、最大40名を厳守させていただきます。

参加費：(会 員) 15,000円 (非会員) 25,000円 (消費税込)
会員参加費は、農業開発研修センター会員所属者及び令和元年度以前からの会友（個人会員）です。なお、会員加入が不明の場合はお問い合わせください。

申込方法：

①裏面の参加申込書をファックスで送信し、参加費を送金してください。

なお、振込手数料はご負担ください。

○ 京都府信用農業協同組合連合会（京都信連）

本 店 当座預金 口座番号：6373291

○ 京都銀行 京都駅前支店 普通預金 口座番号：3164073

口座名義：一般社団法人農業開発研修センター

②申込締切日：9月11日(金)17:00（定員になり次第、締め切ります）

申込締切日以降にキャンセルされる場合、参加費は返金できません。

③会員加入が不明の場合や参加費の前納が不可能の場合はご連絡ください。

④開催要領及び参加申込書は、ホームページ（<http://www.agridtc.or.jp>）からもダウンロードできます。

受理通知：

受付ができましたら、受理通知書をファックスで送信します。

問い合わせ（申し込み）先：一般社団法人農業開発研修センター 緊急特別研究会係

〒601-8585 京都市南区東九条西山王町1（京都JAビル内）

TEL：075-748-0703

FAX：075-748-0855

E-mail：info@agridtc.or.jp、URL：https://agridtc.or.jp

日 程：

13:20～13:30 開会あいさつ 一般社団法人農業開発研修センター 会長理事 小池 恒男
(滋賀県立大学名誉教授)

13:30～14:40 報告Ⅰ コロナ禍と荒れる自然
(うち質疑応答約10分) —「地球新時代」の意味を農の側から考える—
京都大学名誉教授 野田 公 夫 氏

- 専門は日本農業史、比較農業史。著書：『未来を語る日本農業史』昭和堂(2020年)、『歴史と社会 日本農業の発展論理』農山漁村文化協会(2012年)等々
- 「人間社会の写し鏡」としての感染症
- 「自然法則」だけでは解けなくなった「自然のふるまい」
- 「地球新時代」における「農と食」の立ち位置を、「感染症と災害の歴史」から考える

14:40～14:50 休 憩

14:50～15:50 報告Ⅱ コロナ禍による消費者ニーズの変化と産地への期待
(うち質疑応答約10分)

株式会社阪急オアシス
取締役専務執行役員 営業本部長 松 元 努 氏

- ◎2006年に阪急フーズ、阪急デリカ、阪急ベーカリーなどの食品事業会社を統括した株式会社阪食を設立。その後、食品製造会社4社を吸収合併し、2016年に株式会社阪食から株式会社阪急オアシスへ商号を変更
- 新型コロナウイルスの感染拡大は食品産業にどのような変化をもたらしたのか
- 自粛・巣ごもりにより消費者のニーズと購買行動はどのように変わったのか
- アフターコロナを見据えたわが社の戦略と産地への期待について

15:50～16:00 休 憩

16:00～16:40 総括報告 コロナショックはフードシステムにいかなる変化をもたらしたか —そこからみえてくる今後における農と食のあり方—
滋賀県立大学名誉教授 小池 恒男 氏

- フードシステムにもたらされた過剰と不足の“まだら模様の混乱”(ミスマッチ)
- ナオミ・クラインの警告に応じて今こそ直接的な関係の重視を
- 2つの変化の結節点にみえてくる“農と食の地域圏クラスター”の形成
- 期待される協同組合グループの貢献

16:40～16:50 閉会あいさつ 一般社団法人農業開発研修センター 常務理事 瀬津 孝
(京都大学農学部非常勤講師)

当センターは、研究会を開催するにあたり、新型コロナウイルス感染拡大防止策として、以下の取り組みを実施します。

- 会場における換気の徹底と、十分な座席間隔を確保します。
- 会場に消毒液を準備・設置します。
- 咳エチケットや手洗いなどの実施など、皆様のご協力をお願いします。
- 当日はマスク着用のご協力をお願いします。
- 入室時に受付で検温を実施し、37.5度以上であれば受講をご辞退いただきます。
- 発熱や咳、全身痛の症状がある場合など、体調に不安のある方は参加をご遠慮ください。

